

## 印象を深める表現

今回の学習のポイント

- ①さまざまな表現技法を知る
- ②「一語文」による表現効果

### さまざまな表現技法を知る

前回は、内容を生き生きと伝える表現の工夫として「比喩」について学びました。今回は「読み手に印象づける表現」をテーマに、文章をより豊かにし、効果的に伝えるための表現技法（「修辞」「レトリック」といいます）について取り上げ学習します。

#### ■表現技法の例

番組では、具体的な表現技法として「倒置法」「対句法」を取り上げ学んでいきます。

#### 1. 倒置法

主語、述語、修飾語などの通常の語順を入れ替えて（逆にして）、意味や印象を強調する方法。

〈例〉

「そこで何しているの、あなたは。」

（通常の文・「あなたはそこで何しているの。」）

「信じているよ、君のことを。」

（通常の文・「君のことを信じているよ。」）

倒置法により、単調な文章に変化を生み出すと同時に、その内容を深く印象づけることができます。

倒置法は、文学的な文章、感情を訴えかける文章などにおいて効果的ですが、小論文などの論理的な文章、客観的な文章には適していません。また、一つの文章の中で多用しすぎると、かえってわかりにくいものになってしまうこともあります。ここぞという強調点、印象を残したいというところで用いることで効果が生まれます。

国語監修・執筆

中澤 匠吾

## 2. 対句法

構造上、似たような形の語句（対になる語句）を並べて、印象つける方法です。

〈例〉

「沈黙は金、雄弁は銀。」  
「空は高く、海は深い。」

「漢詩」の回でも学習しましたが、対句によって語調が整いリズム感が生まれます。そのことによって、印象を強め、内容も理解しやすいものになっています。

【発展】

表現を豊かにする工夫として、次のような表現技法もあります。

### ▼反復法

同じ語句を繰り返して並べて、意味を強調する方法。「リフレイン」とも言います。

〈例〉

「助けて。助けて。」  
↓ 助けを求める切迫した思いが強調される。  
「会いたい。会いたい。」  
↓ 会いたいという切実な願望が強調される。

### ▼省略法

文章の一部を省き、意味を印象づけたり、余韻を残したりする方法です。

〈例〉

「まさかそんなことになるとは……。」  
↓ 驚き、言葉を失うさまが印象づけられる。  
「彼の秘密とは一体……。」  
↓ 謎めいた要素を残し、余韻を生み出している。



▼誇張法

事物の程度を高めて（大げさに）表現し、意味を印象づける方法です。

〈例〉

「死ぬほど働いた。」

↓ それほど過酷な労働であったということが印象づけられる。

「紙なら腐るほどあるよ。」

↓ 実際に腐るわけではないが、それほど多数の紙があることが印象づけられる。

非常にせまい場所のことを「猫の額」、かわいくてたまらないさまを「目に入っても痛くない」と言うなど、慣用句の中にも誇張した表現が用いられているものがあります。

「一語文」による表現効果

「一語文」とは、一つの単語で成り立つ文のことです。つまり、一語の単語だけでなく文として独立した意味をもっているということです。

例えば、「痛い」という語があります。単独では体や心の痛むさま、現象を表す形容詞に過ぎませんが、机の角に足の指をぶつけて「痛い」と言えば、それは「足の指が痛い。」という文と同義です。おいしいラーメンを食べて「うまい！」などと発する一語も、「このラーメンはうまい。」という意味を表した「文」としての働きを持っています。

このように、一語文は意味をストレートかつ明確に伝える働きを持っています。飾ったり、意図的に工夫したりする表現とは異なりますが、印象を深める表現の一つであると言うことができます。

まとめ

比喩表現と同様、倒置法や対句法なども、印象深く伝えたり強調したりするために効果的な表現技法です。こうした工夫を取り入れることで、読み手をひきつける魅力的な文章になっていきます。また、今回学習した「一語文」のように、読み手にインパクトを与え、即座に意味、意図を理解させるのに効果的な表現方法もあります。

小説やエッセーなどを読んでみると、人物の心理描写や情景描写、状況の細部の説明などにおいて、さまざまな工夫がなされていることがわかります。みなさんも多くの文章に触れ、そうした表現を味わってみてください。そして、自身自身の表現にも取り入れ生かしていきましょう。